

第 218 回友の会 鞍馬寺から貴船

～天狗のいる森をめざして～

日時 2023 年 8 月 27 日 (日)

場所 京都市左京区鞍馬

天候 晴れ

参加者 21 名 (内こども 3 名) スタッフ 9 名 合計 30 名

コース・9 時発の鞍馬行き叡山電車で第一陣出発、9 時 15 分まで駅で待機し、遅れた方を待つ。

12 時 山頂 博物館前で昼食、クイズとお話し

14 時 30 分 鞍馬寺西門で解散

活動内容

鞍馬駅で人数確認を行い天狗に見送られて観察会スタートです。今回のコースは愛山料なる 500 円の入山料が必要で参加者からは“え～”という声が一瞬。山門をくぐっていきなり観察会がスタートです。人数が少なかったのでおおよそ 2 つの班に分かれ車道わきの巡礼道を連なってあるきはじめます。途中池のところで、たぶん鞍馬講のグループと鉢合わせし、観察をせかされながら由岐神社山門へ。キンミズヒキ、ミズヒキとも見ごろを迎えていました。



鞍馬山入口～由岐神社までに見られた植物は、キンミズヒキ、ツユクサ、ヤブラン、ミツバ、ベニバナボロギク、ガンクビソウ、コクサギ、オハラメアザミ、ウワバミソウ、イヌコウジュ、ミズヒキ、シュウブンソウ、コクチナシ、ムカゴイラクサ、アキチョウジ、アオカラムシ、オオバノイノモトソウ、ホウチャクソウ、ナガバヤブマオ、コナスビ、サワハコベ、チャノキ、ツヅラフジ。今日の観察ではいくつかのイラクサ類が見られますが、不用意に触らないよう注意しながらの観察です。さわるとガラス質のとげが刺さり痛さ痒さでイライラ、名前の由来です。



アオミズ



大杉社で、杉の大木を仰いで小休止、下見よりずいぶん暑さも和らぎましたが皆汗びっしょりです。

つづら折りの林の中を本殿に向かい右に左と目をやりながらピンク色のクサアジサイやレモンエゴマ、マタタビなどを観察。山頂の本殿前の階段では幾度も出会ったクサギをほん近くで、芳香と臭気を感じながら一風変わった花の様子を観察、おひるごはんの後さらに詳しく花の様子を説明しました。

スギ 由岐神社の御神木 樹齢 800 年・樹高 53m 京都市天然記念物指定

由岐神社～本殿までに見られたのは、カタヒバ、カゴノキ、ヤブニッケイ、クサアジサイ、タチツボスミレ、ハシカグサ、アシボソ、マツカゼソウ、ツルグミ、ミヤマカタバミ、ウリノキ、ウラジロウツギ、コアカソ、オニルリソウ、ヤマグワ、ツガ、レモンエゴマ、マタタビ、ネコノメソウ、クサギ、バイカウツギ、センニンソウ、ヤマルリソウ、イヌガヤ、ジャノヒゲ、カラムシ、ハエドクソウ、ミヤマイラクサ。

昼食後は先ほどのクサギに続いてツユクサのクイズです。見てきたはずなのに、どれが本当かわかりません。観察会に来ていても観察していないことに気づかされたクイズです。

次回からはもっともっとよく観ていきたいですね。山の頂上は岩盤が硬く上の土が流され根がむき出しになった木の根道です。足元に気遣いひたすら下山です。下山途中で祇園祭の粽のように巻かれた葉を発見。葉を開くとハマキムシ（ハマキガ類の幼虫）が入っていました。自然の不思議に出会えました。



クサギの花の様子を観察
萼の中からつぼみが出て、花卉が開き、オシベが熟した後、メシベが熟すまでが写っています。



ハマキガ類の幼虫がくるまれている

最後の休憩ポイントの魔王殿では石灰岩の露頭が見られました。休憩後、終点の鞍馬寺西門付近は人混みが予想されるため、この場所で最終の人数確認を行い、3グループに分かれ下山しました。途中ジャケツイバラやカラスザンショウを見ながらの帰路です。本殿～奥の院を経て貴船までにみられたもの。ヒヨドリジョウゴ、サルトリイバラ、クサアジサイ、ムラサキニガナ、ヤブムラサキ、キッコウハグマ、ツガ（実）、ウラジログシ、ツクバナゲシ、ダンドボロギク、サンショウソウ、コショウノキ、コバンノキ、ジャケツイバラ、等が見られました。 記：上月



オニルリソウ実は4分果

(今回の報告は、下見報告で詳しく観察対象が紹介されていたので、引用させていただきました。)